

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・様々な新店、百貨店などの新しいビルができるため、確実に人が買物に出てくるので、その相乗効果に期待したい。
		衣料品専門店（店員）	・札幌駅に新しい百貨店がオープンするので、小売業自体が少し盛り返すのではないかと思う。
		一般レストラン（スタッフ）	・3か月前から来客数が前年を上回っており、回復傾向にある。
		観光型ホテル（スタッフ）	・1、2月とも予約状況は前年比プラスとなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	・金融不安、リストラ、そして生活を直撃する医療費の負担増、年金の減額など、消費者を取り巻く環境は厳しく、消費者心理として財布のひもが緩むひまがない。節約志向が定着しており、消費に回復実感がない。
		商店街（代表者）	・客は商品を本当に必要になってから購入する傾向にあり、また低価格商品志向が強い。
		一般小売店〔土産〕（店員）	・景気の回復というのが具体的に見込めない状況である。税制改正によって、逆に増税感というものが消費に対して与えるマイナスの影響の方が強いのではないかと思う。
		百貨店（売場主任）	・今の状況が、当たり前になってきている。
		百貨店（売場主任）	・民間と公務員のボーナスがカットされているため、2、3か月で景気が回復するとは思えない。夏のボーナス以降でない限り景気が回復しないと思われる。
		スーパー（店長）	・12月商戦の客の購入状況をみていると、節約型の購入をしている様子が数多く見受けられる。この様子を見ても、この先への期待感はなかなか持てない。
		スーパー（企画担当）	・毎年わずかながら伸びてきたお歳暮ギフトが今年は苦戦している状況である。また、年末商戦もやや盛り上がり欠けるなど全体の消費の退潮ムードが続いているように感じる。
		家電量販店（店員）	・今月も家電製品のなかではTVが台数、金額ともに、前年よりも良い結果が出ている。しかし、パソコン、調理家電、その他の商品の伸びがなく、3か月後への期待は持てない。
		家電量販店（地区統括部）	・大幅な需要回復がみられないことに加えて、引き続きOA関連商品に復調の兆しがみられない。これから初売り、決算セールとイベントがあるものの、消費者のマインドは冷えているため、今後も変わらない。
		住関連専門店（経営者）	・物販店については、大きな売り方の変革をしなければ売上が増加する要素がない。
		住関連専門店（営業担当）	・競合店との間の価格競争が激しく、依然として一品当たりの単価の下落傾向が続いている。販促媒体を強化しているが、売上が前年を下回って推移しているため、今後も変わらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・利用客の低価格志向は収まらず、販売量が増加しても、売上が伴わない状況が続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・雪まつり期間を含めた2月以降の予約が芳しくない状況である。
		観光型ホテル（経営者）	・旅行客数はそこそこ動きがあるが、宿泊単価は低下傾向に歯止めがかからない。地元客も食いつきが悪く、また付帯収入も経費の手控えがあつて厳しい。
		タクシー運転手	・タクシー業は需要繁忙期になっているが、ここ数年の前年実績割れが止まった感がある。
		観光名所（職員）	・タクシーの空車状況をみても以前とほとんど変わらず、今後も改善する方向にあるとは到底思えない。
美容室（経営者）	・この半年間、多少の浮き沈みはあったものの、客数、単価ともに前年と比べて大きな変化はない。今後も時季的な変動はあつても、全体的な変化はあまりないと思われる。		
住宅販売会社（従業員）	・住宅産業の場合、土地の値下がり止まっていないため、先行きに対しては悪いままで変わらない。政策も特にどうなるかわからないので、あまり変わらないと思う。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・年金の減額や色々な商品の値上げ、リストラ等も進んでいるようで良くなるものが全くみえてこない。	
	コンビニ（エリア担当）	・買回り品の単価の減少が目立っている。	
	コンビニ（店長）	・1年半の間に競合店が5店舗も出店した。とてもこの状態を維持できるとは思えず、先行きはやや悪くなると思う。	

		家電量販店（店長）	・春商戦は、就職、進学がメインとなるが、就職難に拍車がかかっているため、少ない需要をめぐって家電量販店同士の厳しい戦いとなる。
		乗用車販売店（従業員）	・一般家庭の収入が減っているため、車検時でも新車購入に結びつかない。
		観光型ホテル（経営者）	・宿泊客の動きは昨年と同じように推移すると思われるが、宴会客は、地元の景気が上向かないため、昨年同期よりも下がるだろうと思われる。トータルとして宿泊客数は変わらないが宴会客が減少するため、やや悪くなると思われる。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況を見ると、高額の商品が低迷している。
		旅行代理店（従業員）	・客足が前年並みか少し上向きでも、低単価である以上収益は伸び悩む。
		旅行代理店（従業員）	・アメリカの対イラク攻撃が1月以降に開始されるようなことになると、海外旅行を取りやめる客が増加することが懸念材料である。
		観光名所（役員）	・売店などの付帯事業の売上が弱含みに推移している。
	悪くなる	百貨店（売場主任）	・冬のボーナスが厳しい状況からも察しできるように、来客数、客単価とも下がっており、高額商品が売れていない状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	・年末は大きな売上があるときだが、好調だという話は聞かれない。その反動が今年あたりから現れ、流通業者の様々な問題が起きてくるとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・公共事業を始め工事もどんどん縮小傾向にある。客のボーナス等の支給額も減少している。こういった金銭がなかなか動かない状況になっているので、今後も厳しい状況が続くと思う。
		スナック（経営者）	・これから景気が良くなる可能性は非常に厳しいと思う。20数年商売をしてきたが、来年の3月で今のクラブは廃業することを決心した。
		タクシー運転手	・ススキノの繁華街では、年末の忘年会シーズンの人出が例年より少なくなっているように思える。以前のように、年末にススキノで夜間、タクシーを拾えなくなる日がほとんどなくなった。客の話を聞いても、給料、ボーナスが減ったなど景気が今よりもっと悪くなる話ばかりであり、景気はもっと悪くなっていくように思う。
		美容室（経営者）	・客の来店率、平均単価ともかなり落ち込んできている。
		住宅販売会社（従業員）	・業種時期的に冬場であることが、まず業務縮小になると考えている。それと同時に、単価がかなり落ちている状況があるので状況は悪くなる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・補正予算による公共工事の発注が3月には行われる予定なので、実需はまだ発生していないが、マインドはやや好転すると思う。
		通信業（営業担当）	・社会全般のブロードバンドの急浸透(特にADSL)からIT系ビジネスの再拡大期がそろそろくるのではないかと感じる。
	変わらない	その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	・受注量については来月はそこそこあるものの、それ以降の受注量についての先行きは、まだあまり見えてこないのが現状である。
	やや悪くなる	その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・冬季という季節要因に加えて、見積案件が極端に少なくなっており、春先まではこの調子で推移する見込みである。
	悪くなる	輸送業（支店長）	・公共事業の抑制は道内企業により大きな形で影響を与えると想定され、道外企業は、このような状況をすでに想定して事業の縮小化を強く押し進めている。当然、製紙業界などの一部を除いて物流量が大幅にダウンするといった形で影響が現れると考えられる。
		司法書士	・来春に向けた不動産売却、建物新築等の計画的な話がない。
		その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・現在は受注単価の下落に悩まされているが、今後はそれに加えて受注量の減少が加速しそうな気配である。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる		
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人件数の推移は先月、先々月で対前年を上回ってきたが、業種全体が伸びているというよりは、一部の業種、市部地域の大型流通系の求人が伸びていることによる。この傾向は3か月先まで続くというよりは、2、3月で一旦落ち着くとみられる。

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・農業生産が良かった分、第一次産業、二次加工の求人は期待できるものの、あくまでも季節的要因が強く、正社員の求人数は相変わらず低く推移すると思われる。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・全体的には、前年に比べて求人件数がやや増えているが、これは駅周辺部の開発の求人増に伴うものであり、これが不確実になると同時に、全体的には求人の件数は減少すると思われる。
	職業安定所(職員)	・建設業および関連産業が工事完了により、事業を縮小することから雇用需要が見込まれない。
悪くなる	職業安定所(職員)	・建設業、サービス業を中心に事業主都合の解雇が継続し、求人倍率も低下傾向にある。